



日本証券業協会  
Japan Securities Dealers Association

資料 4



とう し  
**10/4**は  
証券投資の日

# 第27回 アジア証券人フォーラム (ASF) 年次総会の模様について

**ASF**  
ANNUAL  
GENERAL  
MEETING

2022  
A

2023年1月  
日本証券業協会

# 1. ASF年次総会の概要



開催日時

2022年12月14日（水）15時～17時（日本時間）

開催方法

オンライン開催  
(Zoom)

参加機関・者

20機関から約70名の参加（参考1ご参照）

## 今回のポイント

- 今年の年次総会は、昨年と同様にコロナ禍の状況を踏まえ、事務局である**本協会の主催によるオンライン開催**となった。
- 冒頭、本協会・森田会長から、アジア開発銀行（ADB）及びASFの各参加機関からの支援、協力に対し感謝の意を表した。
- 本年次総会では、3つのトピックについてプレゼン・意見交換が行われた。
  - ① アジアにおける債券市場の課題とアジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）の取組み（詳細は3頁をご参照）
    - アジアの債券市場の一層の発展に向け、**サステナブル・ファイナンスの推進、国境を越えた投資促進のための対策及びデジタル・トランスフォーメーションの促進**に取り組む必要があると認識。特にトランジション・ファイナンスは重要な課題。
  - ② アジアにおけるトランジション・ファイナンスの動向（詳細は4頁をご参照）
    - 事務局からトランジション・ファイナンスに関するASFメンバーに対するサーベイ結果、ICMAより市場動向や課題に関する説明がそれぞれ行われた後、意見交換を実施。
    - アジアでは、**専門的知見を有する人材の不足やインセンティブの欠如等がトランジション・ファイナンス促進の障壁**となっているものの、**各国は総じてトランジション・ファイナンスを重要な政策課題と捉えている**ことがうかがわれた。
  - ③ アジアにおけるESG投資のあり方（詳細は5頁をご参照）
    - シンガポール証券業協会（SAS）から、**アジアの価値観（協調性、相互理解、信頼、規律、勤勉さなど）とESG投資への適用**について問題提起が行われ意見交換が行われた。
- このほか、ASF事務局より、メンバープロフィールのアップデート依頼、個人情報取扱いや著作権利用にかかる注意喚起等を実施。
- 次回会合は、ボンベイ証券取引所参加者協会（BBF）の主催によりインド（ムンバイ）にて開催予定。

# 1. ASF年次総会の概要（続）



## プログラム

15:00- 15:05	<b>開会挨拶</b> (日本証券業協会 森田会長 <ASF事務局>)
15:05- 15:30	<b>ゲスト・スピーチ：アジアにおける債券市場の課題とアジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）の取組み</b> - スピーカー：アジア開発銀行(ADB)・山寺智アドバイザー [ABMI事務局] - ASFメンバーとの質疑応答
15:30- 16:10	<b>意見交換：アジアにおけるトランジション・ファイナンスの動向</b> - ASF事務局よりトランジション・ファイナンス・スタディグループによるメンバー・サーベイ実施結果について紹介 - 国際資本市場協会（ICMA）よりトランジション・ファイナンスの市場動向等について説明 - ASFメンバーによる意見交換
16:10- 16:40	<b>意見交換：アジアにおけるESG投資のあり方</b> (メンバー機関のプレゼン・ディスカッション) - シンガポール証券業協会（SAS）よりアジアにおけるESG投資のあり方について問題提起 - ASFメンバーによる意見交換
16:40- 16:50	<b>2023年のASF年次総会の予定、ASF参加機関のメンバー・プロフィール作成について</b> - ASF事務局、ボンベイ証券取引所参加者協会（BBF、次回総会ホスト）より説明
16:50- 17:00	<b>個人情報及び著作権に関する事務連絡、閉会の辞</b>

## 2. アジアにおける債券市場の課題とABMIの取組み



### アジア開発銀行（ADB）

- アジア開発銀行（ADB）より、アジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）としての活動内容に係る説明が行われた後、ASEAN+3（日中韓）における債券市場の発展状況や課題に係る紹介が行われた。
- 引き続き、アジアの債券市場における残された課題を念頭に、今後の主な対応として、**サステナブル・ファイナンスの推進、国境を越えた投資に係る規制枠組みの改善**とリスク低減策としての**現地通貨建て商品の推進**及び**デジタル・トランスフォーメーションの促進**に取り組む旨の説明が行われた。

#### プレゼンテーションの概要

- ADBとしてどういったESG債の発行支援を行っているかという観点では、発行に係る社内スキーム策定にあたってのコンサルティングのほか、ウェビナー等も行っている。
- ADBが支援の対象とする業界は特に限定はしていないので、政府系企業も含めて相談可能。経営幹部が支援対象となる債券の発行を全面的に支持しているかも確認しながら支援を行っている。
- **トランジション・ファイナンスはADBとしてもABMIとしても重要な課題**である。当該市場を更に発展させるには、投資家目線で指標があって評価しやすいサステナビリティ・リンク・ボンドも重要であるほか、**インパクト評価の改善**等も引き続き取り組むべき課題である。

#### 意見交換の概要

### 3. アジアにおけるトランジション・ファイナンスの動向



#### ASF事務局（日本証券業協会）/国際資本市場協会（ICMA）

##### プレゼンテーションの概要

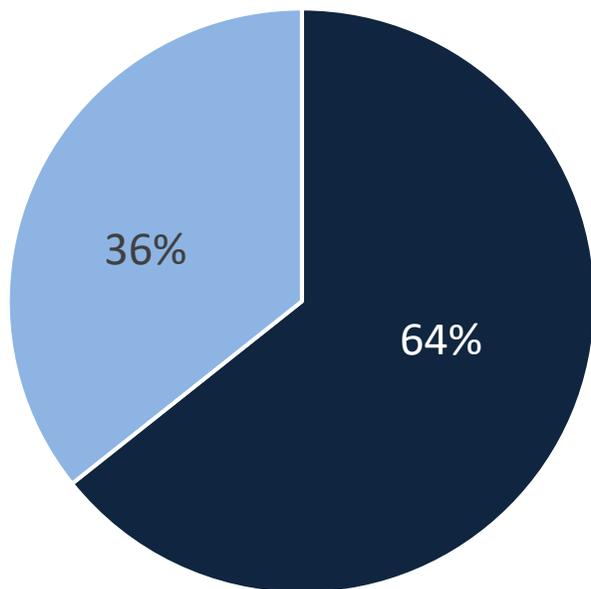
- 本協会（ASF事務局）より、トランジション・ファイナンス・スタディグループによるサーベイ実施結果について紹介が行われた（サーベイ結果の抜粋<総論部分>については次ページをご参照）。アジアにおけるトランジションファイナンスの推進に当たっては、**専門的知見を有する人材の不足**や**インセンティブの欠如**などの障壁があるものの、アジア各国は総じてトランジション・ファイナンスに前向きな姿勢で臨んでいることがうかがわれる結果となった。
- 国際資本市場協会（ICMA）より、主にサステナビリティリンクボンドの特性及びサステナビリティリンクボンド市場の概況等について説明が行われた。続いて、トランジション・ファイナンスに関するICMAの取組みとして、トランジション・ファイナンス・ハンドブックに付随する形での「科学的根拠に関するレジストリ」の開設、および外部評価ガイドラインの改訂について言及があり、トランジション・ファイナンスに関するアジアの取り組み状況について紹介が行われた。

##### 意見交換の概要

- サステナビリティリンクボンドでは、KPIの達成状況よりも発行体により**野心的なKPI**が設定されているかどうか重視される。何が「野心的」であるかについては、各国の状況や発行体ごとに捉え方が異なることから、その定義を一律に定めることは困難であり、市場の判断に委ねられている。
- サステナビリティリンクボンドの発行体が設定するKPIの達成状況の確認に当たり、外部レビュー機関が果たす役割は大きく、ローカルに展開する企業がもっとこうしたレビュー事業へ参入していけるよう後押ししていく必要がある。
- トランジション・ファイナンスとは、気候変動対策を検討する企業が、脱炭素社会の実現に向けてより持続可能な方法で資金調達を行えるよう、**脱炭素に向けた移行の取組みのための資金調達を支援**するための資金供給である。「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」では、発行体が脱炭素へ移行するための経路等、トランジション戦略を達成するための具体的なガイダンスを示している。

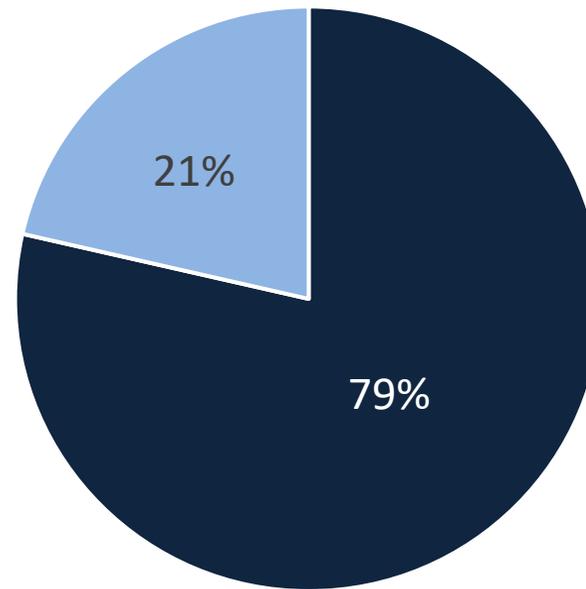
Q. 「トランジション・ファイナンス」という用語は自国の資本市場参加者の間で広く認知されていると思うか？

■ はい ■ いいえ



Q. 貴団体は、「トランジション・ファイナンス」を重要な政策課題として捉えているか？

■ はい ■ いいえ



## 4. アジアにおけるESG投資のあり方について



### シンガポール証券業協会 (SAS)

- シンガポール証券業協会 (SAS) より、アジア地域におけるESG投資のあり方について、**同地域でのESG投資の規模やポテンシャル、投資家からの需要の高まり、パンデミック前後での企業の意識変化、発展に向けた各国の最近の取組み**が紹介された。
- そして、今後のアジア地域のESG投資の発展について、**宗教の多様性や儒教的な考え方、アジアの価値観（協調性、相互理解、信頼、規律、勤勉さなど）とESG投資への適用**について説明が行われた。
- 一方で、今後アジア地域のESG投資は急速に発展し欧米の規模に追い付くことが予想されるが、投資家の需要に応えるためには、投資家が**ESG投資のパラメータを理解するためのアドバイザリーサービスを充実させること等が課題**であることが述べられた。

#### プレゼンテーションの概要

- ESGと社会理念との関係という観点からは、アジア地域で信奉される宗教には社会的な繋がりや環境保護など教えの中でESGと共通する部分が多く存在する。当方の法域ではカトリック教徒が多く同様の考え方が存在する。宗教の教えからESG投資を紐解くことは興味深い。
- その他、SASからメンバー機関に投げかけられた各法域の状況に関する質問について情報共有を実施した。
  - ✓ ESG投資に対し需要のある産業セクター、投資家の属性（リテール／機関投資家）、手段（株式／債券／ファンド／炭素税）
  - ✓ メンバーの法域におけるアジア的価値観では、環境、社会、ガバナンスのうちどの要素が最も親和性が高いか？
  - ✓ ESG投資で利益を生み出すために考えられる方法

#### 意見交換の概要

# (参考1) 第27回ASF年次総会の参加機関一覧



- ・ アジア証券人フォーラム（ASF：Asia Securities Forum）は、1995年、アジア・オセアニア地域における証券界の意見及び情報交換、証券市場の発展と経済成長への寄与を目的に本協会の提唱により設立。本協会が常設事務局を務めており、現時点でアジア・オセアニア地域における自主規制機関及び業界団体の27機関が加盟している。
- ・ 本年次総会には、20機関から約70名が参加。

国・地域	機関名
アジア	国際資本市場協会（ICMA）アジア太平洋地域事務所
豪州	豪州金融市場協会（AFMA）
中国	中国証券業協会（SAC）
台湾	台湾証券業協会（CTSA）
香港	香港証券業協会（HKSA）
インド	インド証券取引所参加者協会（ANMI）、ボンベイ証券取引所参加者協会（BBF）
インドネシア	インドネシア証券業協会（APEI）
日本	日本証券業協会（JSDA）
韓国	韓国金融投資協会（KOFIA）
マレーシア	マレーシア証券業協会（ASCM）
モンゴル	モンゴル証券業協会（MASD）
フィリピン	フィリピン証券業協会（PASBDI）
ロシア	ロシア全国金融協会（NFA）
シンガポール	シンガポール証券業協会（SAS）
タイ	タイ証券業協会（ASCO）、タイ債券市場協会（ThaiBMA）
トルコ	トルコ資本市場協会（TCMA）
ベトナム	ベトナム証券業協会（VASB）、ベトナム債券市場協会（VBMA）

## (参考2) ASFの概要及び過去の年次総会開催地



開催年	国	都市	開催年	国	都市
1995年	日本	東京	2010年	中国	北京
1996年	韓国	ソウル	2011年	日本	大阪
1997年	フィリピン	マニラ	2012年	インド	ムンバイ
1998年	日本	神戸	2013年	台湾	台北
1999年	台湾	台北	2014年	タイ	バンコク
2000年	日本	東京	2015年	韓国	ソウル
2001年	タイ	バンコク	2016年	フィリピン	マニラ
2002年	中国	北京	2017年	日本	東京
2004年	インドネシア	バリ	2018年	インドネシア	バリ
2005年	日本	京都	2019年	トルコ	イスタンブール
2006年	韓国	ソウル	2020年	オンライン	(日本主催)
2007年	フィリピン	セブ	2021年	オンライン	(日本主催)
2008年	香港	香港	2022年	オンライン	(日本主催)
2009年	オーストラリア	シドニー	2023年	インド	ムンバイ (予定)